



岡山県精神科医療センター紹介

OKAYAMA PSYCHIATRIC MEDICAL CENTER

LOCATION

岡山市中心部に位置する



ACCESS

岡山駅からバスで約10分



精神科医療センター前
または
精神科医療センター西で下車



徒歩すぐ

WHOLE VIEW



CONCEPT



“ 光、風、緑 ”

あふれる

明るく快適な治療環境を提供

人としての尊厳を第一に
安心・安全の医療を目指します。



全国113施設
岡山県に2カ所

児童精神科入院施設
全国に26カ所

**依存症拠点病院
岡山県に1カ所**

医療観察法入院施設
全国に32カ所

DPAT先遣隊病院
17カ所

往診・訪問看護・
デイケア・相談支援

難治性精神疾患連携事業
(クロザピン/m-ECT)
岡山市身体・精神合併症救急連携事業

当センターの特徴

精神科医療の中核病院として、
精神科救急急性期入院棟・依存症セン
ター・司法精神科入院棟・児童思春期
入院棟など、民間では対応が難しい分
野にも対応出来る機能を持っている
公的病院

岡山県精神科医療センターの概要実績 (令和6年度)

診療科:精神科、児童精神科、心療内科

病床数:255床

入院基本料:13対1

初診総数:2,102人

病床利用率:92.9% (司法精神入院棟を含む)

平均在院日数:全体 42.8日 (司法精神入院棟を含まない)

※全国平均(精神病床) 257.6日 ※厚労省病院報告2024年3月

入院棟紹介

西 2 総合治療入院棟
(56床)



西 3 救急急性期入院棟
(53床)



西 4 救急急性期入院棟
(48床)

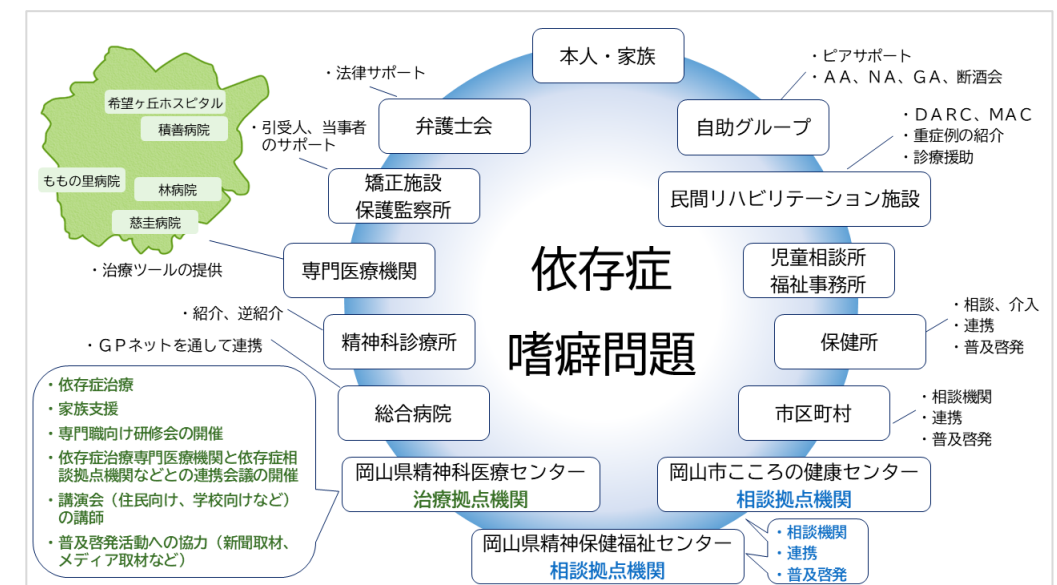


入院棟紹介

中2 児童・思春期入院棟
(20床)



中3 急性期治療入院棟
(42床)



東 司法精神入院棟
(30+3床)



外 来 部 門

外 来

【在宅支援（多職種）】

- ・ 鹿田丸訪問看護ステーション
- ・ デイケア
- ・ 相談支援センター鹿田



東古松サント診療所

外来診療



デイケア



ライトコート



中庭



保護室（床暖房）



談話スペース



病状に応じた病室

一床室



プライバシーに
配慮した四床室



看護部理念

患者さんの尊厳を守り、
セルフケア能力を高め、
自己決定を支える看護を
提供します

看護部基本方針

1. 患者さん一人ひとりの生きがいや自立性を尊重し、人としての尊厳を守ります。
2. 安全な環境を提供し、患者さんの安全を守ります。
3. 看護行為とその結果に責任を持ち、質の良い看護を提供します。
4. 看護師としての自己啓発出来る人材を育成します。
5. 多職種と連携・協働しながら効果的なチーム医療を推進します。

看護部の概要

令和7年4月1日現在

入院基本料

13：1

看護職員数

224名

(産休・育休等含む、派遣除く)

R7年度新規採用者

12名(うち新卒者5名)

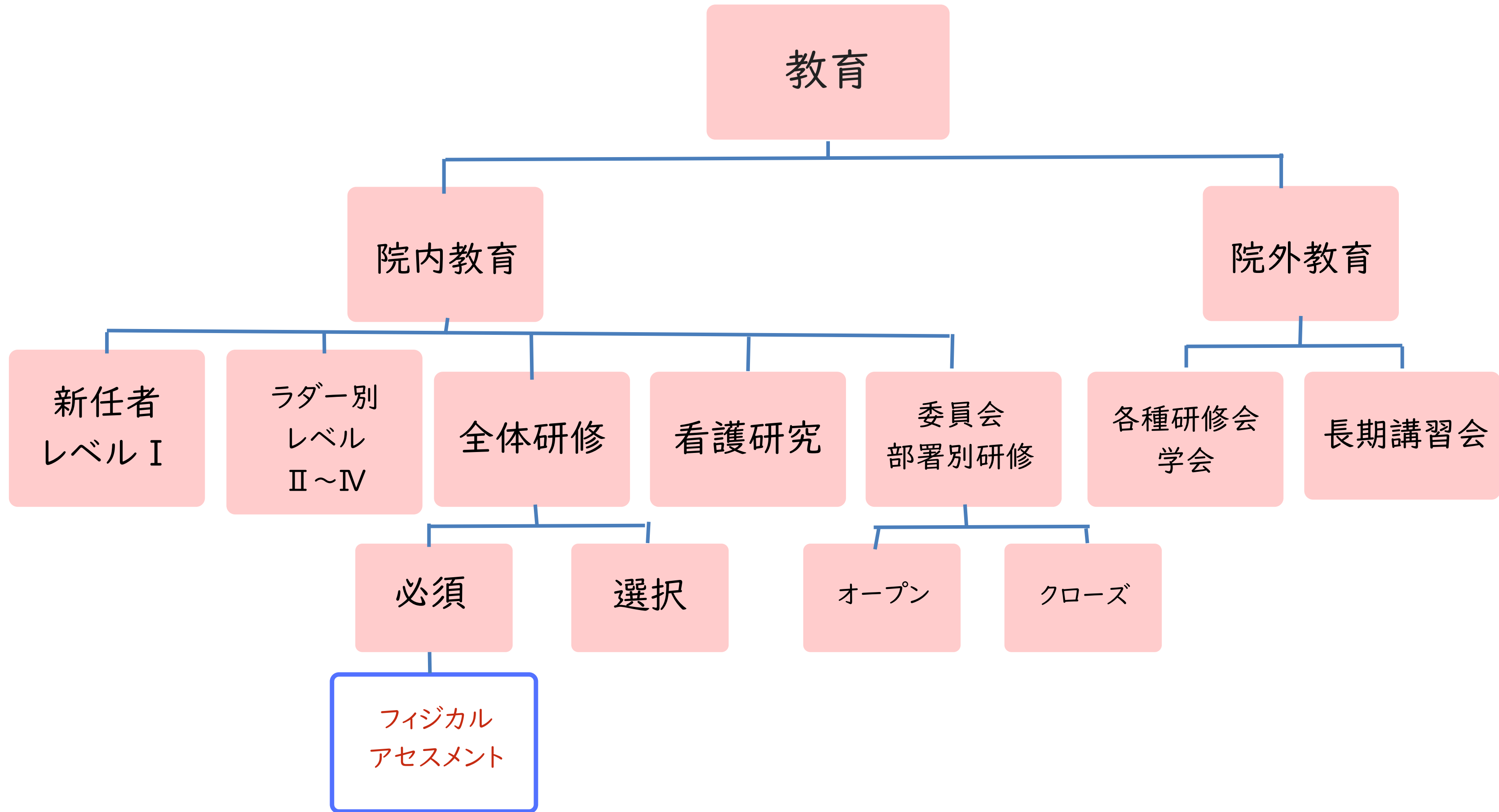
平均年齢

40歳

平均勤続年数

10年

教育体制



看護職員教育計画（院内教育）

●院内全体教育

- ①接遇・倫理・医療安全・精神保健福祉法
- ②人事評価制度に伴う研修会・多職種連携

●委員会別教育

- ①救急（身体・精神）・感染・記録・リスク

●教育委員会教育

- ①新任者・ラダー別・全体・フィジカルアセスメント
- ②看護研究・事例研究発表会

●看護単位別教育（オープン・クローズ）

看護職員教育計画（院外教育）

●各種学会参加・発表

●研修会

①日本看護協会・日本精神科看護協会・病院協会ほか

●長期講習

①管理者研修・ファースト・セカンド・サード

②実習指導者講習会

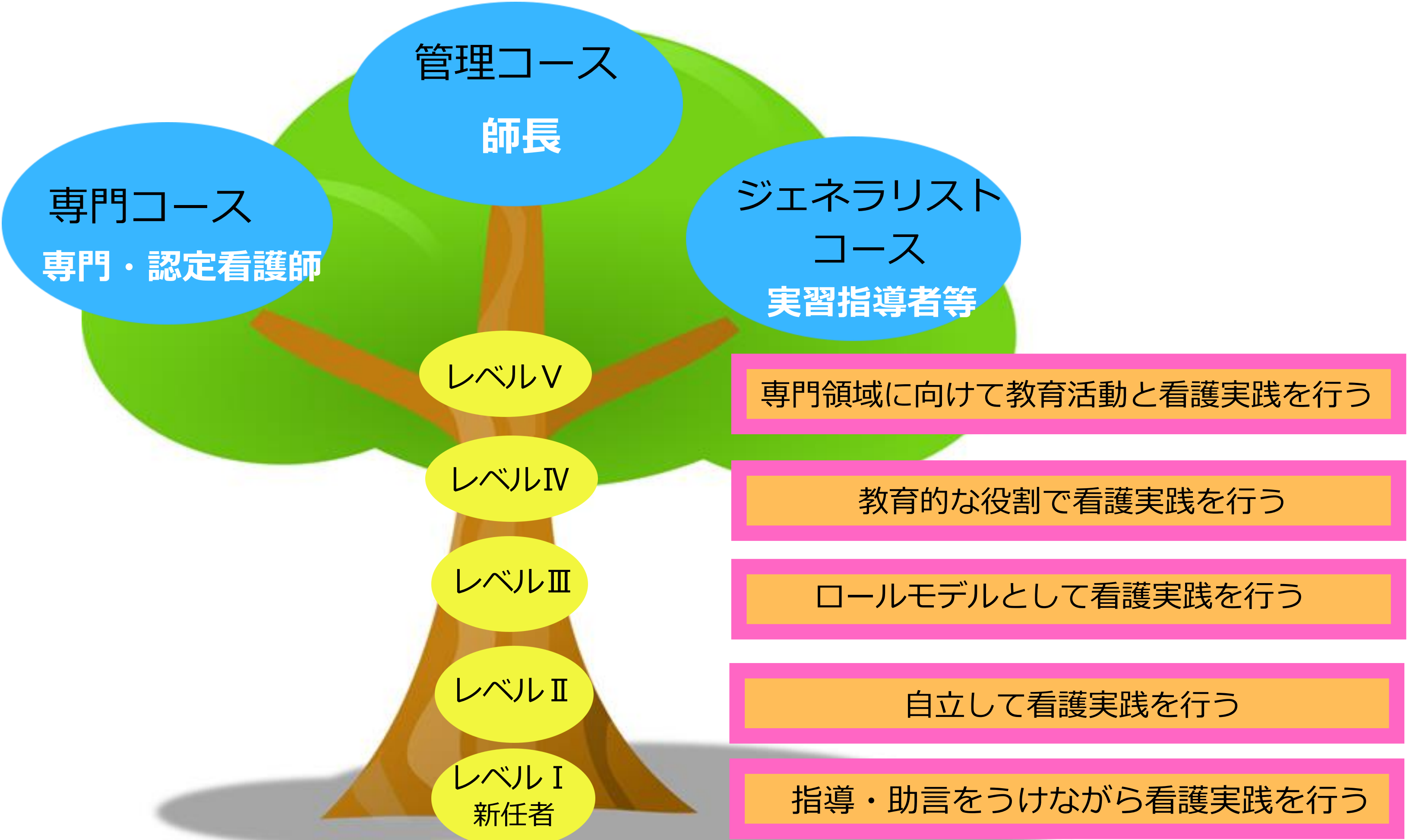
③訪問看護師養成講習

●専門看護師・精神科認定看護師支援

●その他

①各自自己研鑽

クリニカルラダーの階段を目標をもって着実に！



新人研修

オリエンテーション

全体研修



各入院棟の紹介



各種講義

倫理とは？

2022年7月11日 研修資料



気分障害の看護



精神保健福祉法

適切な入院形態がとられているか。
任意入院 医療保護入院 措置入院 応急入院
適切な処遇が実施されているか。
退院請求 処遇改善請求

作業療法士が大切にしていること



公認心理師とは

多職種の中で、心理学を基礎にして患者とかわる専門職
公認心理師とは、公認心理師登録への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育などの分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者（公認心理師法第2条）。

その他、部署見学、接遇研修、防火訓練、集合写真撮影などがあります。

精神科の看護師は 身体疾患の勉強ができない なんて思っていないですか？

精神科の看護師だからこそ、
身体科の看護師と同じく、身体のことかわからないと
務まりません・・・

なぜ？

患者さんの身体的な訴えが、精神症状からなのか、
身体症状からなのか、見極める見極める必要があるからです。
精神科ですが、フィジカルアセスメントにも力を入れています！

(ナーシングスキル導入)

看護技術・フィジカルアセスメント



✉ support@nursingskills.jp

ELSEVIER
ログイン

Nursing Skills

ホーム ナーシング・スキル日本版を詳しく知る ▲ ログイン

製品詳細

サンプル手技

手技リスト

導入施設一覧

導入事例

機能一覧

FAQ（よくあるお問い合わせ）



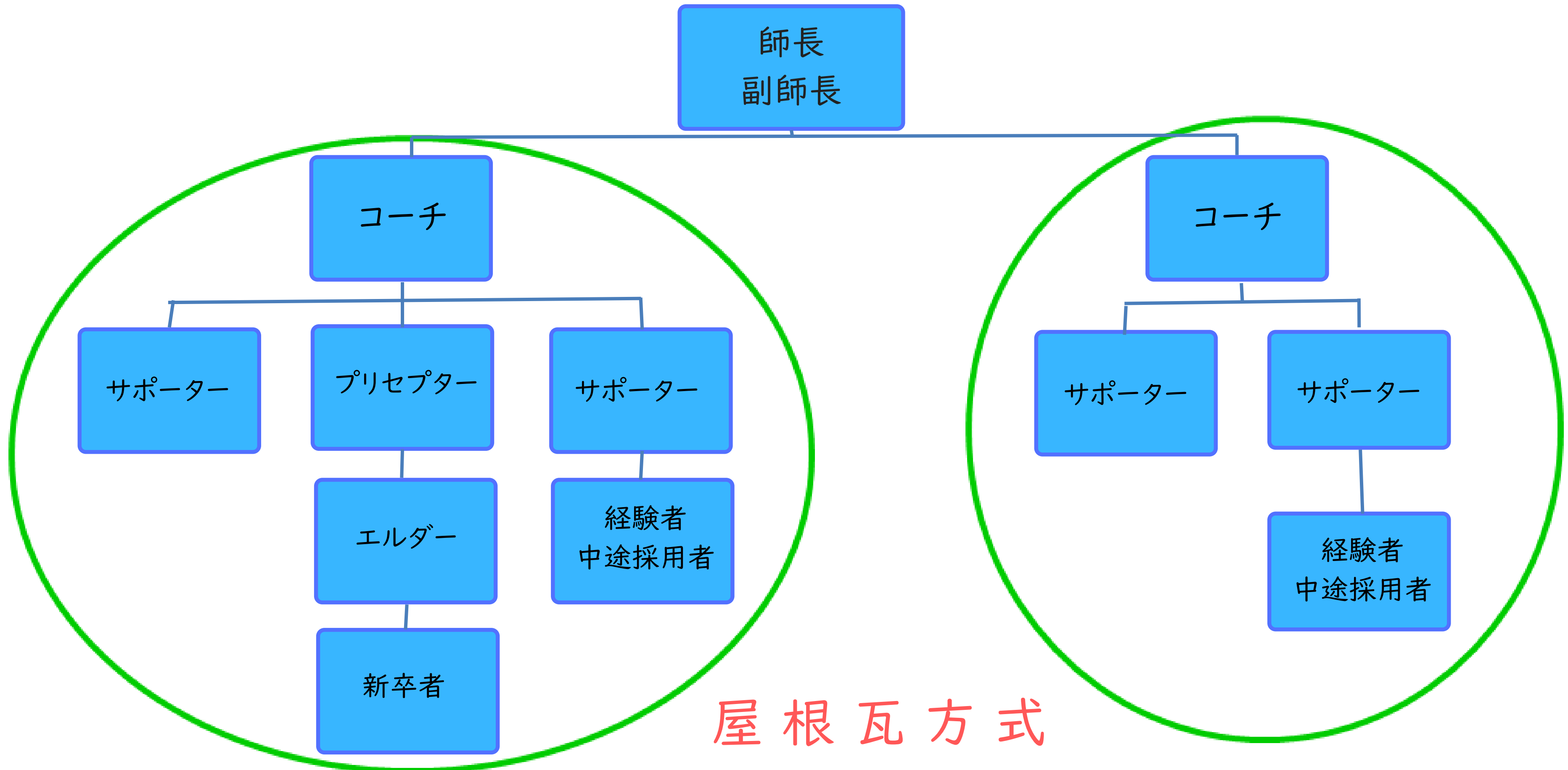
ナーシング・スキル日本版

ナーシング・スキル日本版は、看護技術を動画とE-ラーニングで確認・習得するオンラインツールです。
看護技術の手順・動画・根拠に、講義動画シリーズ（オプション）を加えていただくことで、新人看護師から中堅看護師、管理職まで、充実した研修を効率よく実施することができます。

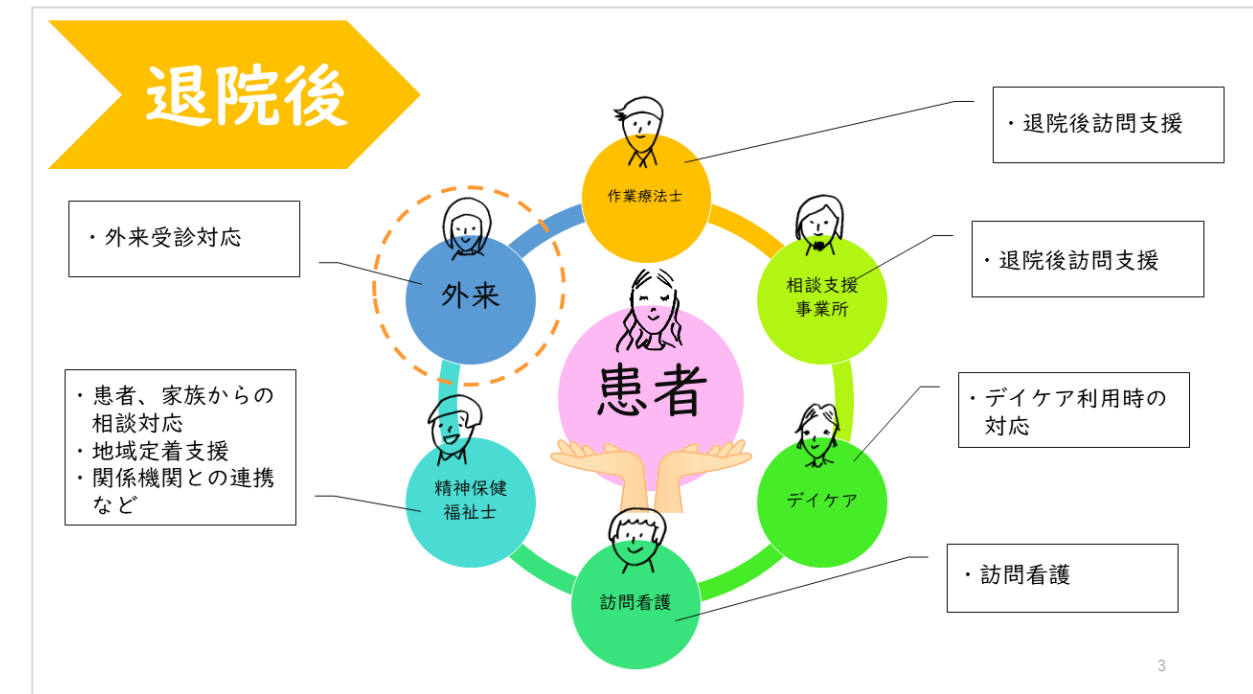
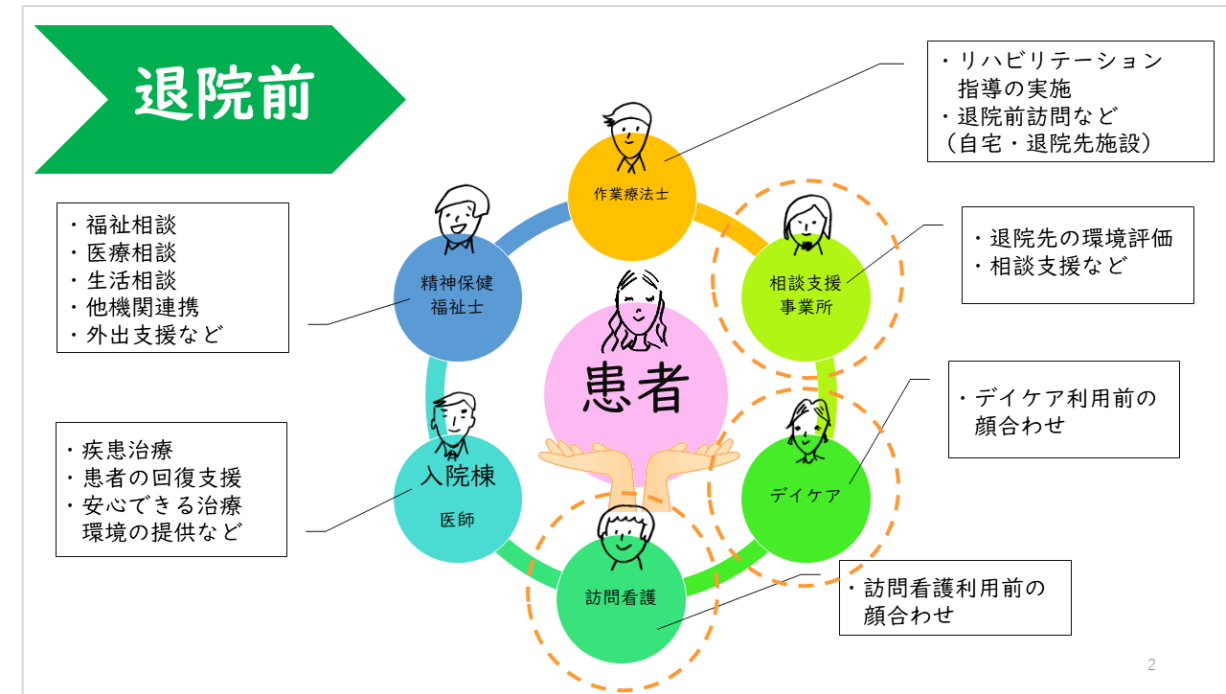
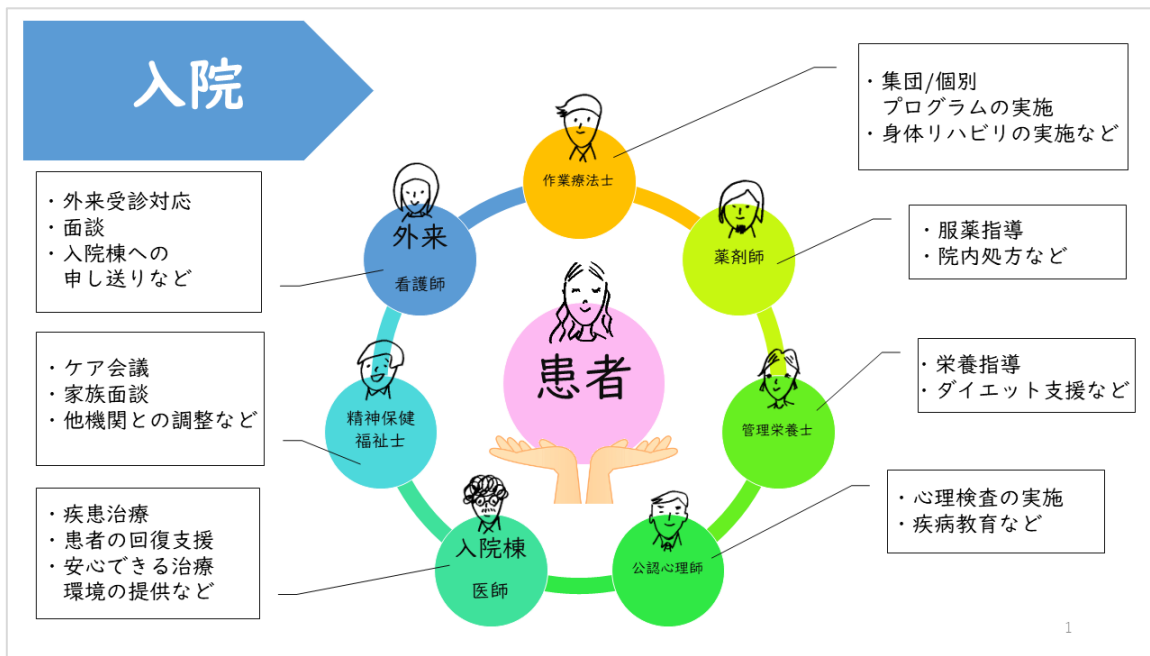
看護技術を映像で確認・習得！

動画講義で最新知識も習得できるようになりました！詳しくはコチラ

いつ就職してもチームでサポート！



多職種連携



入院から退院後まで、様々な職種が関わり、患者さんを支えています。

先輩ナースの声



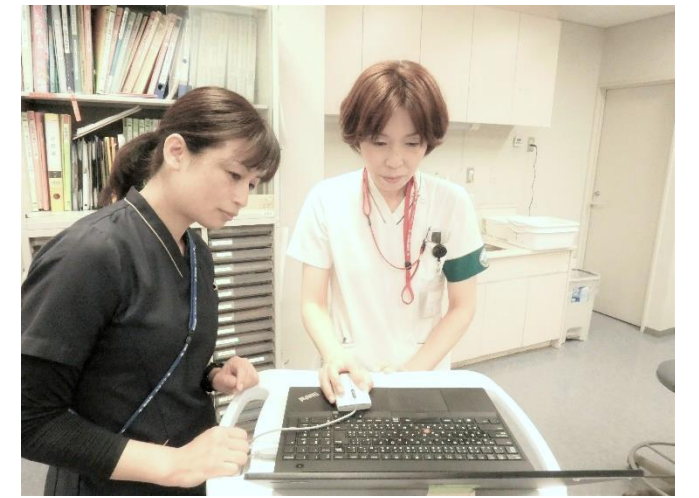
私は、救急急性期病棟に所属しています。入院される患者さんの特徴としては、精神症状が亢進し、気分の変動が活発な方が多いです。そのため、入院生活を安心して過ごしていただくために関係構築を大切にしています。
患者さんはもちろん、ご家族や支援者の方とも情報共有し、必要なサポートを提供できるようにしています。

精神科医療センターに就職したきっかけは、精神科の分野に興味があったことや、実習で当院を訪れたときに、丁寧に指導をしてくださり、職場の雰囲気が良かったのが印象的だったことです。

入職後も、看護技術の指導や、勤務をする中で困難に思ったことや不安などの相談を親身になって受けてくださり、とても働きやすい環境です。

1年目として、患者さんとの関わりの中で1人1人に合った関わり方や看護を提供できるように経験を積んでいきたいです。また、勤務形態も夜勤などあり、不規則な生活になるため、自分自身の健康についても気をつけて過ごしていきたいと思います。

先輩ナースの声



私は新人のときから、「患者さんの気持ちに寄り添う看護がしたい」という看護観を持っており、5年前に一般科の看護師を退職し、当院に就職しました。

私が所属する児童・思春期病棟は、発達障害の特性から、注意される場面が多く失敗体験を積み重ねていたり、虐待で大人を信用出来なくなり、強い防衛行動をとらざるを得ない患者さんなどが入院されています。

たくさんの傷つき体験を重ねてきた患者さんとかかわることで、患者さんが成功体験を喜んだり、褒められて、はにかみながらも嬉しそうな表情を浮かべている姿をみると、自分のことのように嬉しい気持ちでいっぱいになります。

また入院時、発達障害の子を持つ悩みを誰にも打ち明けられず、孤独に苦しんでおられたご家族に、それまでの労いの言葉をかけさせていただき、堰を切ったように涙を流されていたご家族とかかわらせていただくことで、退院時には笑顔で患者さんを迎えに来られ、退院後フォローの家族会でご家族がリカバリーされている姿を目の当たりにすると、「精神科の看護師をして良かった!」と、この上ないやりがいを感じます。

これからも、患者さんが安定して地域での生活が送れるよう、日々精進してまいります。

先輩ナースの声



私は新卒でこの病院に就職しました。当初は基礎看護技術が身につかないのではないかと不安がありました。しかし、実際には処置もたくさんありますし、研修も充実しているので、精神科においても基礎看護技術を磨く事ができます。

またスタッフ間の仲も良く、行き詰り悩んだ時もスタッフ全員が自分のことのように一緒に考え、様々なアイデアを出してくれ助けてくれます。私が今まで働いてこれたのは一緒に働くスタッフの支えがあつてのことです。

私は就職して司法病棟と救急急性期病棟を経験しています。現在は救急急性期病棟で勤務していますが、精神病状が活発で生活が阻害されてしまっている方、気分障害を抱えておられる方、発達特性で困っておられる方など様々な方が様々な理由で入院されています。個々に異なる回復を支えることは困難なことや難しいことも多いですが、患者さんが心を開いてくれ、いろいろと相談してくれるようになることや回復されて、地域で元気な姿をみるとやりがいやうれしさを感じます。

今後も患者さんの回復をサポートできるように日々精進して行きたいと思います。

先輩ナースの声



私は救急急性期病棟で勤務をしています。精神科は患者さんの抱えている悩みや症状、生きづらさなどさまざまです。患者さんがその人らしく生活できるように、寄り添いサポートし、回復していく姿を見るととても嬉しくやりがいを感じます。

そして私は、現在は2人の子育てをしています。育児休暇復帰時には、育児と仕事の両立に不安があり、育児時間制度を使用させてもらいました。忙しい業務の中、先に帰らせてもらうことに抵抗がありましたが「もう帰る時間でしょ。早く帰り。」と気にかけてくれるスタッフの多さにとても驚きました。

子どもの体調不良で保育園からお迎えの連絡が来ると「看護師の変わりはいっぱいおるけど、お母さんのわりはいないんだから帰り。」と温かく声をかけてくれます。

また、家庭の事情で休日勤務や夜勤が多くできませんが、勤務も配慮してくれます。申し訳なさもあるのですが、「子どもと一緒におれるのは今だけよ。夜勤はできる人がすればいいんだから。」と温かく声をかけてくれるため、気づけば育児休暇復帰時に抱えていた育児と仕事の両立への不安は和らいでいました。

現在第三子妊娠中ですが、力のいる仕事はしなくて良いようフォローしてくれるスタッフばかりで、母子ともに健康なまま働くことができおり、安心して産休に入れそうです。

忙しい業務の中、私のことまで配慮してくれる優しいスタッフがいてくれるからこそ、育児と仕事の両立ができていると思いますし、日々感謝しかありません。このような子育てしやすい環境を私も受け継いでいきたいです。

先輩ナースの声



私が精神科という領域に興味を持ったのは、看護学生時代のことです。ここ岡山県精神科医療センターより看護スタッフの方が授業に来てくださっていました。

当時担当だった先生の授業は、実体験をありのままに伝えるという形。そこから見える疾患と人との関係がとても興味深く、精神科看護の奥深さにときめいたことを覚えています。今でも心の残っている先生の言葉が、「ただそこにいることの大切さ」です。入職してからその言葉の意味するものを時折考えることがあります。

多くの患者さんは病気にではなく、病気から生まれた「生きにくさ」に苦しんでおられます。個々に異なる回復を支えることは困難も多いですが、患者さんの笑顔に私自身も支えられながら、そっと手を添えられる場所にいられることを意識し日々看護を行っています。

先輩ナースの声



私はこの病院に就職してから結婚、出産を経て3人の子育てをしながら現在病棟勤務をしています。就職した当時からすると、住む場所も生活スタイルも大きく変わりましたが、こうして働き続けられているのは、その時々で先輩方や一緒に働くスタッフの方々の支えがあったからだと感謝しています。

特に育児休暇からの復帰後には、子供の体調不良で急な休みや早退が必要になることも多く、心苦しく思う時があります。しかし、そんなときいつも「仕事の代わりをする人はいるけど、お母さんはあなたしかいないでしょ。」「家庭あつての仕事だから、お子さんを大事にしてあげて。」など、温かい励ましとサポートしてくれるスタッフの方々に支えられてきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、子どもが3歳になるまでの間、1時間早く終業できる育児時間制度を積極的に使っていくことを先輩が勧めてくださり、その制度も活用させていただきとても助かっています。これから育児をしながらこの病院で働く人にとって働きやすい職場環境、風土をしっかりと受け継いでいきたいと思っています。

そんな私が今感じている精神科看護の魅力は、患者さんのその人らしさを応援できることです。身体科では、身体疾患にフォーカスを当てて関わりを持っていますが、精神科ではその人自身に関わっていきます。そして、精神科の症状は一律に数字で測ることや、見える形にすることが出来ないことも多く、関わりにも成果があるようでないような奥深い世界だと感じています。そんな中で患者さんに起こっていることを多角的に捉えるためにも、自分ひとりではなく、看護スタッフやコメディカルスタッフともカンファレンスや相談を繰り返します。患者さんにとってより良いケアを、またその患者さんらしく生活していくためのケアを、患者さんも一緒に模索して患者さんと一緒に取り組みます。その治療プロセスには、いろいろな意味で私自身にもたくさんの学びや自分らしく生きていくためのヒント、子育てのヒントもたくさん与えて貰ってきたように感じています。

家庭と仕事の両立は、大変なこともあります。でも、そんな魅力とともに、支えてくれているスタッフの方々、また同じように子育てをしながら頑張っているスタッフに元気をもらいながら頑張れている今現在です。

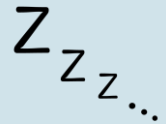




子育てママの

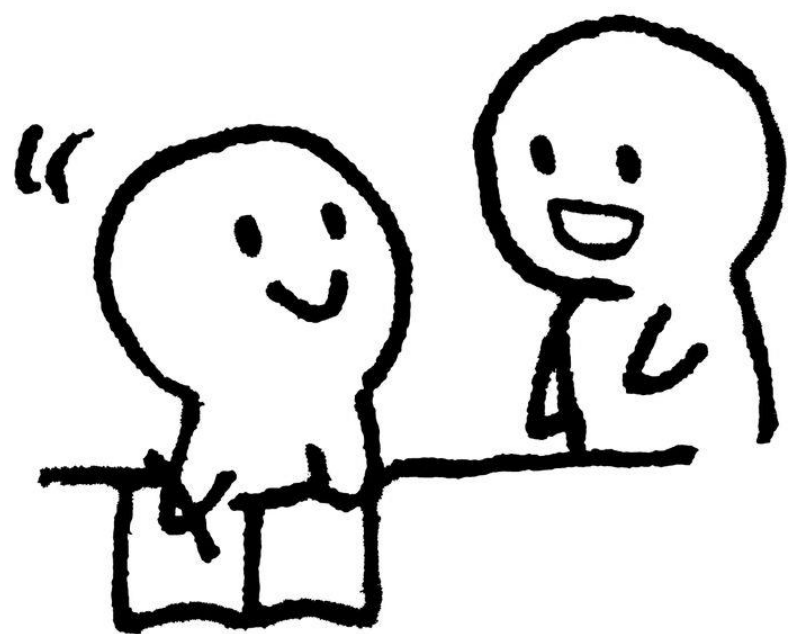
1日のスケジュール



AM		PM	
5 : 3 0	起床、準備	1 3 : 0 0	午後の情報共有、カンファレンス
7 : 0 0	自宅出発→子供を保育園に預ける	1 3 : 3 0	処置、ケア、患者さん対応、記録
8 : 0 0	病院到着、情報収集 	1 6 : 1 5	退勤→子供のお迎え ※特別休暇（育児時間）を利用 
8 : 3 0	始業、申し送り	1 7 : 0 0	帰宅→夕食、入浴など
9 : 0 0	配薬、検温、処置、ケア、患者さん対応	2 1 : 0 0	子供寝かしつけ 
1 2 : 0 0	昼食配膳、配薬	2 3 : 0 0	就寝 
1 2 : 1 5	休憩		

先輩ナースに聞いてみた！

- ① 就職してみてもうどうですか？
- ② 当センターを選んだ理由は？
- ③ 良かったところを教えて！
- ④ 不安なことは？
- ⑤ 1日のスケジュールは？



育児をしながら活躍中！

①私はこの病院に就職してから結婚、出産を経て3人の子育てをしながら現在病棟勤務をしています。就職した当時からすると、住む場所も生活スタイルも大きく変わりましたが、こうして働き続けられているのは、その時々で先輩方や一緒に働くスタッフの方々の支えがあったからだと思っています。

②身体科では、身体疾患にフォーカスを当てて関わりを持っていますが、精神科ではその人自身に関わっていきます。そして、精神科の症状は一律に数字で測ることや、見える形にすることが出来ないことも多く、関わりにも成果があるようでないような奥深い世界だと思ったからです。





③育児休暇からの復帰後には、子供の体調不良で急な休みや早退が必要になることも多く、心苦しく思う時があります。しかし、そんなときいつも「仕事の代わりをする人はいるけど、お母さんはあなたしかいないでしょ。」「家庭あつての仕事だから、お子さんを大事にしてあげて。」など、温かい励ましとサポートをしてくれるスタッフの方々に支えられてきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、子どもが3歳になるまでの間、1時間早く終業できる育児時間制度を積極的に使っていくことを先輩が勧めてくださり、その制度も活用させていただきとても助かっています。また、患者さんの治療プロセスには、いろいろな意味で私自身にもたくさんの学びや自分らしく生きていくためのヒント、子育てのヒントもたくさん与えて貰ってきたように感じています。

④子供の体調不良で急な休みや早退が必要になることも多く、心苦しく思う時があります。

勤務形態

① 三交代制

日勤・準夜勤・深夜勤

② 二交代制（児童思春期入院棟）

日勤・夜勤

給与

〈一般的なモデルケース（４年制大卒）〉

時間外勤務は
ほとんど
ありません

● ２年目（独身）

月額 ３４４，０００ 円（控除前）

※ 地域手当、住居手当、時間外勤務手当、準夜勤・深夜勤手当等含む

● １０年目（妻と子ども３人を扶養）（控除前）

月額 ４３３，０００ 円

※ 地域手当、扶養手当、通勤手当、準夜勤・深夜勤手当等含む

休暇

● 年休

毎年1月に20日付与（最大年間40日）

※前年からの繰り越しあり



122日／365日は休日

● 特別休暇

年度特別休暇（旧夏季休暇）、結婚休暇、

健康管理休暇、忌引休暇、ボランティア休暇等

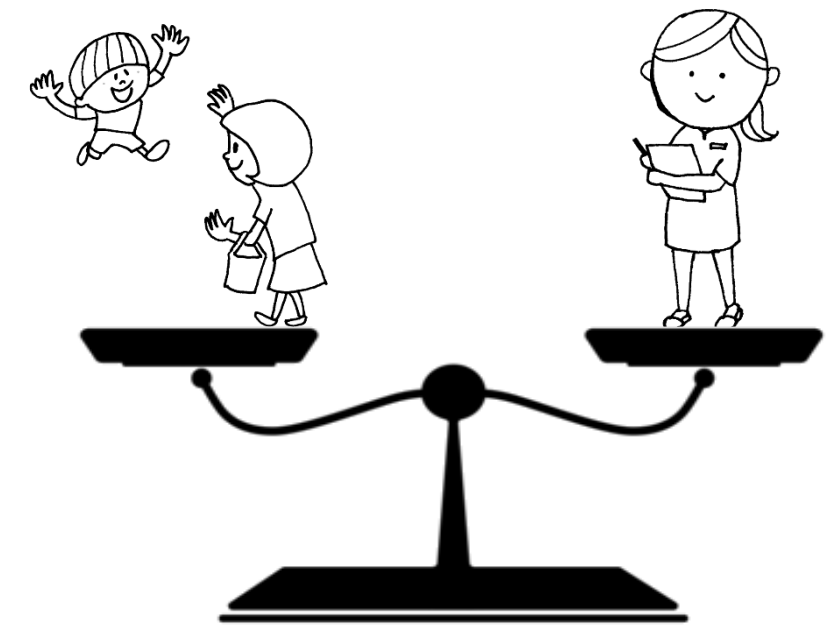
● 産前産後休暇
産前8週間、産後8週間

● 育児休暇

(育児休業給付金支給があります)

最長3年間

復職率100%!



☆ 安心して育児と仕事の両立ができる環境を整えています ☆

同好会・サークル

- 釣り
- バレー
- バスケット
- ゴルフ
- 野球



充実した
研修サポート

じっくり看護
ゆっくり休日

休暇がとりやすい
環境

あなたの夢がかなう
様々なサポート

少ない残業

仕事と育児の
両立

採用試験

- 実施日：2025年5月24日（土）
2025年7月27日（日）
2026年1月17日（土）
- 試験内容：筆記・面接・身体検査書の提出

※ 病院ホームページにも掲載しています

当センターへのお問い合わせ

- 住所：〒700-0915
岡山県岡山市北区鹿田本町3-16
- TEL：(086) 225-3821
- FAX：(086) 234-2639
- E-mail：a-yamada@popmc.jp
- HP：<https://www.popmc.jp/>

看護部：山田晶子

Welcome to our Hospital!



お待ちしております!